

「子育ておしゃべり会」

—参加型保育園の有効性に関する、待機児童保護者を中心とした意見交換会—

慶應義塾大学政策・メディア研究科 中村美穂

mint@sfc.keio.ac.jp

1. 概要

参加型保育園の有効性を検証するにあたり、事前調査として藤沢市在住の待機児童を持つ保護者を中心とした意見交換会「子育ておしゃべり会」を合計三回開催した（本基金による開催は第二回と第三回）。その結果、保護者目線からの参加型保育園の可能性や課題点を洗い出すことができ、次の研究課題に繋げることができた。

2. 目的

本会の実施目的は、下記の通りである。

① 待機児童問題への関心の把握

藤沢市の待機児童問題に関して保護者の視点を把握する。

1. 認可保育園と認可外保育園、保育ママのイメージ
2. 密室育児の現状
3. 子育て支援センターの活用の有無

② 「参加型保育園」のあり方と利用可能性に関するヒアリング

利用者のニーズに対応した園運営を設計できるよう、「参加型保育園」について保護者たちの率直な反応を調査するとともに、ニーズや希望を聴く。

1. コンセプト、仕組みの受容有無
2. 保護者視点から
 - ・重点質問項目：上限保育料、希望時間帯、預ける際のチェック項目
3. パートナースタッフの視点から
 - ・重点質問項目：週1回6時間働くことへの反応、働く時間帯
4. 子ども視点から
 - ・重点質問項目：給食とお弁当、異年齢保育

③ ネットワーク作り

今後も継続して、参加型保育園の調査・研究活動にご協力いただける方を募る。

3. 実施主体

- ・主催：慶應義塾大学金子郁容研究室「参加型保育園プロジェクト」（政策・メディア研究科修士課程一年 中村美穂、環境情報学部四年 大木洵人、総合政策学部三年 大坂里菜、環境情報学部三年 佐久間美希）
- ・後援（敬称略）：NPO 法人地域魅力（進行のコーディネートを引き受けてくださいました。）
藤沢市生涯学習人材バンク登録団体子育てじゃんけんぽん（託児を引き受けてくださいました。）
- ・協力（敬称略）：藤沢市子育て支援課、秘書課（会場取り、広報チラシ配布を手伝ってくださいました。）

4. 実施概要

各回における実施詳細は、下記の通りである。

実施回	日時	場所	実施内容
第一回	2010/03/28 10:00-12:00	藤沢市六会公民館 第一談話室	・待機児童問題の実態インタビュー ・参加型保育園の概要説明（別紙1参照）
第二回	2010/04/24 10:00-12:00	藤沢市村岡公民館 第一談話室	・参加型保育園の魅力、不安点、改善点等のインタビュー（別紙2参照）
第三回	2010/05/16 10:30-12:30	藤沢市湘南台公民館 第四談話室	・保護者の学習プログラムの事例説明 ・参加型保育園に応用したいプログラム要素のインタビュー（別紙3参照）

5. 本会の議論内容

第一回では、実際に当事者である待機児童の保護者に対して、待機児童となって具体的に困っている事や要望を伺い、実態を把握した。そして、第二回では、参加型保育園モデルに対し、保護者として、実際に預けてみたいかどうか、もし現状で預けたくないとすれば、どういった点をどのように改善すればよいか議論を行った。最後に、第三回では、第二回のメイン議題となった「参画する保護者の一定の価値観や能力の担保」に有効とされる、保護者向けの学習プログラムの先行事例を紹介しながら、実際に、そのプログラムに携わってみたいかどうか、保護者の目線からの検証を行った。

6. 本会から得られた知見・反省点

本会は、保護者視点のより深い“本音”を引き出すため、少人数による複数回実施を行った。そのため、本会から得られた情報は汎用性に欠けるが、自分自身が今まで気付かなかった、保護者からの視点を養うことが出来た。パート層の保護者を中心として、パートナースタッフとしての保育所運営参画へ前向きな意見が得られたが、「自分自身の子育てによって、他のお母さんや子どもの気分を害してしまわないか」というのが、参加者共通の懸念事項であることが分かった。また、その課題を克服するための学習プログラムへの参加に対しても前向きであることが分かった。

また、本会の運営に関する反省点は次の通りである。まずは、第一回開催時に、“待機児童”をメインテーマとして打ち出してしまったため、愚痴の言い合いとなってしまい、建設的な議論に発展させることが出来なかった。会の設計をより工夫すべきであった。また、当然のことではあるが、保護者の率直な意見を伺うためには、各回に必ずアイスブレイキングタイムを設けること、また、複数回話し合う中で信頼関係を醸成していくことが不可欠であると改めて痛感した。

7. 今後の展望

本会の議論を通して、参加型保育園に対する、保護者目線からの具体的な強みや課題を洗い出すことができた。今後は、今回得られた仮説の検証を行っていききたい。具体的には、より待機児童が深刻な都市部のエリアにおける質問紙調査や保護者の参画を導入している施設等へのインタビュー調査を予定している。

8. 謝辞

本会（第二回・第三回）は、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」のご支援の下に開催された。また、本会開催にあたり、多くの方々から多大なるご協力を頂いた。NPO 法人地域魅力、藤沢市、子育てじゃんけんぼん、ご参加頂いた保護者の方々に、厚く御礼を申し上げます。